

大溪へ行こう！

研究推進部長 丹生 憲一

中間テストが終わりました。

テスト中に、台湾の治平高級中学校から、観光案内ポスターが届きました。これは、応用日本語科の生徒達が授業の中で大溪という街を日本語で紹介するために制作したものです。テスト最終日、さみどりホールにてオンラインでセレモニーを行い、治平の校長先生からご挨拶をいただきましたので紹介します。原文も掲載しますので、漢字を頼りに解読してみてくださいか？

一日も早く台湾へ、大溪へ行ける日が戻るようお願いしてやみません。

柏原高校大垣 喜代和校長、並びに教職員、生徒の皆さん、こんにちは。

今日、治平高校の全教職員、生徒を代表して、柏原高校の皆さんに挨拶いたします。桃園市役所と大溪日本語ガイドセンターの協力のもとで、本校の生徒達が撮った写真とポスターが貴校で展示できるようになって、感謝いたしました。地元から、自分の文化を認識して、生かして、グローバル化への教育方針が両校は共に持っていると感じております。

応用日本語学科は5年前から日本語で地元の文化を活かすことに力を注いでいます。案内ガイドという授業を通じて、桃園市内の名所の歴史や研究して、ガイドブックを作って、クリエイティブ商品をデザインしました。今度、生徒達はカメラとペンを通じて観光名所大溪の美しさを表しました。大溪には多くの日本時代の建築物が保存されております。例えば、武徳殿や大溪神社などがあります。大溪の木工芸も全国で有名なので、独楽は大溪の代名詞になっております。丹波市の名物と言えば、黒豆と小豆と粟で、大溪の名物と言えば、豆干と独楽と旧市街です。生徒達の作品を通じて、皆に大溪の魅力を感じさせて、両校の生徒が多様な文化と国際間の相互理解をより一層、深められることができるように願っております。

去年から、両校はオンラインで交流して、今年もコロナをはじめ3回目の交流をする予定です。そして、水曜日の午後にも、生徒達がサミットで話し合っ、このような交流の機会を通じ、両校の生徒が多様な文化と国際間の相互理解をより一層、深められることができるように願っております。コロナが終息した後、初対面で交流しますように願っております。

どうも ありがとうございました。

兵庫県立柏原高校大垣 喜代和校長、全教職員及同學們，大家好。

我是台灣桃園市治平高中 徐享鵬校長，今天很開心在桃園市政府觀光旅遊局以及大溪日語導覽推動中心的協助下，有機會在貴校展示本校應用日語科的學生作品。在地國際化，從認識自己腳下土地的文化開始，進而推廣在地文化，最後與國際接軌，這是我們兩校共同的教育理念。

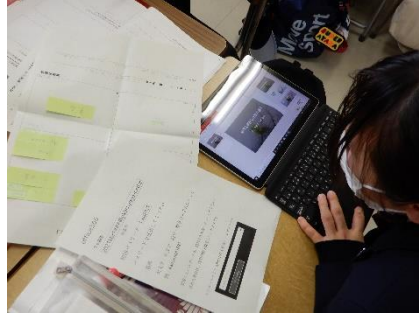
應用日語科從五年前就開始推動日語結合在地文化課程，這群學生以了解在地文化，推動在地文化為出發點，透過學校導覽日文課的學習，利用相機鏡頭以及畫筆來呈現桃園著名觀光景點大溪的人文風景。大溪，保有很多日治時期的建築物，例如武徳殿以及大溪神社等等，木藝技術更是聞名全國。丹波市有三寶，分別是黑豆、紅豆和栗子，而大溪三寶是豆乾、陀螺和老街。希望透過學生們的作品，可以讓大家都感受到大溪獨特的風采，更希望藉由這樣的互動增加彼此的了解。

從去年開始，兩校透過視訊進行學生交流活動，今年也規劃了三次的主題式交流，更利用星期三下午的時間進行個別交流活動，利用簡報以及影片的制作，兩校的學生可以體驗到各自的特色以及深度瞭解彼此的文化。期許疫情結束後，我們可以有面對面的交流，我們期待你們的到來，謝謝。



丹 BALI 10月20日(水)

丹 BALI (一般クラス) では、「自分たちにできること」と題して、前回のおすそ分けで話し合った「効果」と「実現可能性」を基に、課題解決策を考えています。ブレインストーミングで出し合ったアイデアを見直す班もあれば、スライドに打ち出す班もありました。さらに進んで、自分達で動画を作ろうと計画している班、これから地域の人たちにアンケートを取ろうとしている班もあり、今後の進展が楽しみです。次回(27日)は兵庫県教育委員会の訪問を受け、5回目のおすそ分けの様子をみていただくことになっています。



知の探究コースでも、各班に分かれてスライドを作成しながら、担当の先生方と課題解決策を考えています。「丹波三宝すべてを取り込んだスイーツを作る」という班では、細見ちひろさんがお母さんの協力を得て、4種類のオリジナルスイーツを作ってきました。試食して、写真を撮るというのがこの時間の活動だったようですが、せっかくなのでバルナ先生に見てもらって、調理部でスイーツを作る時に心がけていることを指南してもらいました。

(1)「テーマ、コンセプトを考えること」(2)「テーマに合った食品を考えること」(3)「主に使用する食材を決めること」(4)「それらの食材の長所・短所、どのような食品でそれらの材料が使われるかを調べること」(5)「どんな客層に提供したいか、またその理由を考えること」(6)「ここまで考えたことを一つのお菓子としてまとめること」(7)「そのお菓子でうまくいっていること、うまくいっていないことを調べること」(8)「一つ一つのパーツを検証し、満足いくまで違ったバージョンをためすこと、これをそれぞれのパーツで検証すること」(9)「前に試したことをすべて組み合わせ、味や触感がよくなる方法を考えること」(10)「食べてもらいたい客層の人に試食してもらい、意見を聴くこと」(11)「改良する時にはこれらの意見に注目し、少しずつ改良すること」(12)「満足いくまで繰り返すこと」(13)「最適なマーケティング方法を考案する。どのように提示し、宣伝し、包装するかを考えること」…例えば、調理部で作った「ほうじ茶くりスタル」は(1)「丹波のもつ強みを活かし、外国人にも食べやすいもの」(3)「丹波栗」(5)「丹波のことをあまり知らない大人、お年寄り、外国人」…というように、テーマや対象を絞り、さらにはこれらを食べる状況としては、「おじいちゃん、おばあちゃんの家へ帰省して、家族みんなで食べる」と想定した上で、5つセットで売り出すことを考えたそうです。…皆さんが丹 BAL でやろうとしていることにもつながるのではないのでしょうか。

細見さんの作ってきたお菓子を見て、バルナさんは「シンプルで狙いも分かりやすいので、三宝全てがのったカップケーキがロールケーキがよいと思う。プラスチックのグラスに入ったもの、モンブラン風のものもよいが、店内での飲食に限られるだろうから…」というコメントを残しています。明正堂の吉竹さんにも写真を見てもらいました。今後、このお菓子が売り出されことになるのか注目しましょう。

